

## 平成23年度第2回県立長野図書館協議会概要

- 1 日 時 平成24年2月28日(火)午前9時30分から正午まで
- 2 場 所 県立長野図書館第1会議室
- 3 出席者  
(委員：五十音順) 楠直樹委員、小林いせ子委員、田中春海委員、玉城司委員、若林恵実子委員  
(事務局職員) 寺沢洋行館長、多城哲企画幹兼次長兼総務課長、東方政秀副参事兼企画協力課長、町田真弓主幹、柳沢勝男副参事兼資料情報課長、関信和専門幹兼資料係長、山本紀子主任、柳沢孝夫情報係長、内山伯子主幹、北村小竹主査
- 4 会議次第
  - (1) 開会
  - (2) 館長あいさつ
  - (3) 会議事項
    - ア 条例改正等について
    - イ 設備改修工事について
    - ウ 地震に対する備えについて
    - エ 平成24年度の事業予定について
    - オ アンケート調査結果について
    - カ 雑誌スポンサー制度について
    - キ 課題解決型図書館への取組みについて
  - (4) 意見交換
  - (5) 閉会
- 5 会議の概要  
会議事項について事務局資料説明後、質疑応答及び意見交換

(玉城委員)

ア条例改正について、委員の選定基準などにこの図書館独自の特徴があるか。

イの改修工事後冷暖房のコストが上がったのは、都市ガスの費用が割高なためということだが、どの程度か。

ウの地震への備えとして、本棚が倒れないよう実施した工事の他に、本の落下防止

の対策は。

エの事業予定は、まだ計画に落としていない段階か。

オについて、アンケートを実施して80%以上という高い回収率は他にない。それだけ、この図書館の利用者の意識が高いと感じる。個別意見Cの蔵書について「圧倒的な蔵書の少なさです」とあるが、何を基準とした意見なのか。年間出版される膨大な数の本に対し、たとえば国会図書館に比べれば確かに圧倒的に少ない、しかし周辺の市立図書館などに比べれば、県立図書館は圧倒的に多いのではないかと、意外な意見。何を基準とし、具体的にどんな本がたりないのか調査してほしい。

カのスポンサー制度について、寄贈書との区別は何か。

キのサービスの表で、図書館に求められているのは「情報発信」よりも「情報の整理」と考えるが。

(事務局)

アについて、委員の選考は条例に定める分野の各団体から推薦をいただいている。今後公募制についても検討してまいりたい。

イの設備改修による暖房コストについては、昨年1月の重油代と比較して今年のカスタ代は10万円ほど高い。夏の冷房時に有利な契約となっているため、冬の暖房は割高、節約に努めたい。

ウの本の落下防止については、滑り止めシートなど検討しているが予算の都合もあり購入には至っていない。

エの平成24年度の事業については決定事項。

オの蔵書について言うと、今回の企画展「3.11をみつめなおす」用の書籍約259冊のうち246冊は震災以降に購入したものであり、専門書は充実しているが、小説など一般的な書籍については個々の希望には中々対応できない。「蔵書が少ない」というのは、専門書でないものを求めている方、市立図書館との比較による、ご意見だと思う。

カの寄贈については寄贈者の名前は公表していない。また郷土資料の寄贈がほとんどである。スポンサー制度では広告ができることから事業者の協力がより期待できる。それにより、雑誌購入費にあてていた年間約200万円から別の図書館を買うことができる。

キの表については、課題解決に向けたサービスに生かせるものを作り、PRしていきたい。内容はこれから充実させていくため、様々なご意見を伺いながら検討してまいりたい。

(楠委員)

塩尻の総合教育センターでの研修を受講した。課題解決型図書館について、行政支援サービスまで提言されているが、図書館の優位性が図れるかなど話題となった。総合的な情報センターとしての図書館が期待されている、今までの図書館という姿が変

わるのだと思った。

(事務局)

教育委員会定例会では、「これからの図書館像」で今までの貸出サービスから調査・研究サービスへ指針が変わり、課題解決型のコーナー作りに取り組むこと、行政支援についてもっと積極的に使うよう提言を行った。行政支援は、鳥取県で片山知事が県庁で行ったレファレンスサービスで、国の情報を流すだけでなく図書館の本・資料などを活用し、自分で考えて仕事を進めようという取組。時間に追われる中で、実務的には大変だが、県の資料コーナーと連携したレファレンスも PRした。

(小林会長)

アンケートの回答の公開方法は。

(事務局)

ホームページに載せるとともに、図書館の1階ホールに綴じたものを3冊掲示している。

(小林会長)

回答の内容から、いまだに県立図書館としての方針や特徴が一般の方に理解されないのは、やはり PR不足では。

(若林委員)

県立図書館の必要性や努力についても感じているが、利用者の年齢層と合ったものを提示できれば満足度も上がるのではないかと。アンケートや希望を受けてとった対策や購入した書籍など、情報を出すと喜ばれると思う。今回の蔵書点検結果にある不明本の少なさから見ても、利用者のマナーが良く、大切にされていると感じる。ホームページでも協調するなど、言葉を変えて利用者に訴えるような情報提供をしてほしい。

(事務局)

アンケートの個別意見は、良い評価が8割を占めたが、公表段階ではほとんど削ってしまい、否定的なものだけ協調されてしまった。

(若林委員)

利用者に直接的に伝わるように、「『アンケートの声を取り入れて』こうなりました」といった表現で PRしては。

(田中委員)

災害対応で訓練なども新たに行ったのか。

アンケートでは、休日分と平日分の違いの分析があってもよかった。

収益を上げるような取組も良いと思う。

課題解決は、例えば医療などの新しい情報を基本情報に取り込むなど大変難しい取組だと思う。また、子育て支援は支援者に対する情報提供も意味するのか。

歴史的音源は、これまでの資料と違い、具体的に分かる情報源として期待している。

(事務局)

防災訓練は、火災を前提とした非難誘導訓練を実施した。例年職員だけで行っているが、利用者も含めての実施はこれからの課題と考えている。

雑誌スポンサー制度は、図書館法で対価を取らないことになっている中で、収益を上げるのではなく、より蔵書の充実を図れるよう工夫したもの。協力が得られれば有難い。

課題解決も、最先端医療までは難しい。その問合せ先の情報を提供したい。子育て支援など具体的な内容はご意見をいただきながら、これから検討してまいりたい。

歴史的音源は著作権の問題があり、ダウンロードはできない。検索は各家庭のパソコンからも可能なので利用してほしい。また、図書館にも映像・音声資料があり、県の情報統計課と共同でアーカイブ化の作業をしている。そうしたものも公開していくことになると思う。

(小林会長)

3・11についての企画展は貸出可能なのか。もっとPRを。

(事務局)

関連図書259冊(内246冊は震災後購入したもの)を、2階図書室のコーナーへ設置し、貸出も可能。

(楠委員)

課題解決では司書の方の負担も増える。H24年度事業としてあげられているものは、全部やらなければいけないのか。増えた分は減らせないのか。

(事務局)

全項目のうち、充分に取り組めていないものもある。今求められているものを見極め、整理していきたい。

これから予算はもっと厳しくなる、どう使うかが課題。継続資料の収集は切れない。専門書を充実しても利用頻度は低い。一般書を増やせば利用は増えるが、県立の役割が果たせない。

(各委員)

文書館が別がないので、県立歴史館と役割の整理をし、資料の保存と情報提供機能の充実を図ってほしい。

団塊の世代が退職し、利用者も増えるのではないか。

文化の基盤としての図書館の重要性をPRして行ってほしい。

(小林会長)

熱心に検討していただいた。予算のない中で努力していることが良く分かった。H24年度に向けて、協議内容を活かして行ってほしい。